

多くのがんの初期には、自覚症状がありません。

がん検診を受診することで、がんを早期に発見し、適切な治療を行うことができます。
早期に見つけれれば、がんは決して怖い病気ではありません。

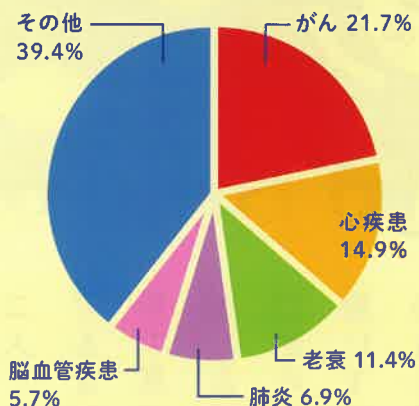
「怖い」、「面倒くさい」、「自分は大丈夫」だと言わず、
命を守るためにがん検診を受けましょう！



徳島県の令和6年における、
がんによる死亡数は2,455人で、およそ
「1/5」の方ががんで亡くなっています。

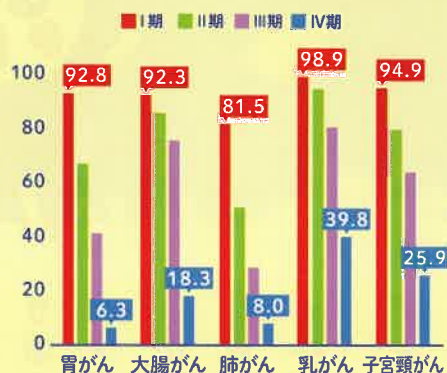
進行度(ステージ)の
低い段階で発見し、治療すれば
生存率は高くなります。

徳島県の死亡原因



出典: 令和6年(2024)人口動態統計(確定数)の概況(厚生労働省)

ステージごとの5年後の生存率



※ここでは、「がんのみが死因となる場合の5年後の生存率(=ネット・サバイバル)」を採用しています。
出典: 国立がん研究センター がん情報サービス「院内がん登録生存率集計」(2014-2015年5年生存率)

大腸がん

- 対象者: 40歳以上の男女
- 受診頻度: 年に1回

大腸がんは徳島県で罹患数が一番多いがんです。
食生活の欧米化により、大腸がんの罹患数が増えています。

検診内容

便潜血検査 専用の検査容器に少量の便を採取して提出します。
※便潜血検査で陽性になったら、大腸内視鏡検査を受ける必要があります。

肺がん

- 対象者: 40歳以上の男女
- 受診頻度: 年に1回

喫煙者は非喫煙者と比べ、男性で約4倍、女性で約3倍、肺がんになりやすいと言われています。

検診内容

胸部X線検査 X線で肺全体を撮影します。
喀痰細胞診 痰を採取し、肺がんの細胞が混ざっているかを顕微鏡で調べます。
(問診で必要と認めた場合)

乳がん

- 対象者: 40歳以上の女性
- 受診頻度: 2年に1回

「ブレスト・アウェアネス(乳房を意識する生活習慣)」を
日頃から実践しましょう。

検診内容

マンモグラフィ
乳房を片方ずつ2枚の板ではさみ、X線で撮影をします。触ってもわからないしこりや石灰化を見つめます。乳房の圧迫時間は数十秒ほどです。

4つのポイント

- ①自分の乳房の状態を知る
- ②乳房の変化に気をつける
- ③変化に気づいたらすぐ医師に相談する
- ④40歳になったら2年に1回乳がん検診を受ける

胃がん

- 対象者: 50歳以上の男女※ ※当面の問、胃部X線検査については40歳以上、年1回でも可
- 受診頻度: 2年に1回※

胃がんは、初期は自覚症状もなく、自分では気づきにくいがんです。定期的な検診が重要です。

検診内容
(いずれか一方)

胃部X線検査

発泡剤と造影剤(バリウム)を飲み、さまざまな角度から胃の内部をX線で撮影します。

胃内視鏡検査

口や鼻から内視鏡を入れ、胃の中を直接観察します。

子宮頸がん

- 対象者: 20歳以上の女性
- 受診頻度: 2年に1回

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染によるものが多く、
20~30代で急増しています。

検診内容

細胞診 子宮頸部の細胞を綿棒などでこすり採り、採れた細胞診を顕微鏡で調べます。

内診

膣内に指を入れ、下腹部の上を軽く圧迫しながら子宮や卵巣を触診します。